

考查項目の考查項目別運用表

(主任監督員)

考查項目	細 別	技術力キーワード一覧表	【事例】 具体的な評価技術力項目及び工事事例
4. 工事特性	I. 施工条件等への対応	<p>I 構造物の特殊性への対応 (■施工規模の大きさへの対応)</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 対象構造物の高さ、延長、施工(断)面積、施工深度等の規模が特殊な工事</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 対象構造物の形状が複雑であることなどから、施行条件が特に変化する工事</p> <p><input type="checkbox"/> 3. その他 理由： _____</p> <p>II 都市部等の作業環境、社会条件等への対応</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 地盤の変形、近接構造物、地中埋設物への影響に配慮する工事</p> <p><input type="checkbox"/> 5. 周辺環境条件により、作業条件、工程に大きな影響を受ける工事</p> <p><input type="checkbox"/> 6. 周辺住民等に対する騒音・振動を特に配慮する工事</p> <p><input type="checkbox"/> 7. 現道上での交通規制に大きく影響する工事</p> <p><input type="checkbox"/> 8. 緊急時に対応が必要な工事</p> <p><input type="checkbox"/> 9. 施工箇所が広範囲にわたる工事</p> <p><input type="checkbox"/> 10. その他 理由： _____</p>	<p>(1. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切土、盛土、掘削土量 5万m³以上 又は切土高(直高) 20m以上 盛土高(直高) 10m以上 ・護岸高(直高) 5m以上 ・築堤高(堤内地地盤高から計画堤防高の差) 5m以上 ・浚渫工(港湾) 20万m³以上 ・樋門、樋管 15m²以上 ・揚排水機場 1500mm以上 ・堰、水門、最大径間長 20m以上又は径間数 2系間以上 ・トンネル(シールド) 径10m以上 ・トンネル(開削工法) 高20m以上 ・トンネル(NATM) 内空断面積 80m²以上 ・トンネル(沈理工法) 300m²以上 ・海岸堤防、護岸、突堤、離岸堤 水深5m以上 ・地滑り防止工・流路工 50m³/s以上 ・砂防ダム 10m以上 ・治水ダム(転流工を含む) 30m以上 ・橋梁下部工 高さ15m以上 ・橋梁上部工 最大支間長 80m以上 ・土留工、締切工(直高) 5m以上 ・下水道管渠(推進工) 400m以上/スパン ・下水道管渠(シールド) ・下水道中継ポンプ場(暫定ポンプ場、マホール形式ポンプ場は除く) ・下水道処理場(場内ポンプ場、沈砂池、水処理施設及びこれらと同規模工事) ・林道開設延長≧500m ・下水道面整備≧5ha ・工事現場が10箇所以上 <p>(2. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂防工事などにおいて、現地合わせに基づいて再設計が必要な工事。 ・鉄道に隣接した橋脚の耐震補強工事又は河道内の流水部における橋脚の撤去工事。 ・供用中の道路トンネルの拡幅工事。 <p>(3. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他、構造物固有の難しさへの対応が特に必要な工事。 ・その他、技術固有の難しさへの対応が必要である工事。 ・地山強度が低い又は土被りが薄いため、FEM解析などによる検討が必要な工事。 <p>(4. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・供用中の鉄道又は道路と交差する橋梁などの工事。 ・市街地等の家屋密集地での、鉄道又は道路をアンダーパスする工事。 ・監視などの結果に基づき、工法の変更を行った工事。 <p>(5. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス管、水道管、電話線等の支障物件の移設について、施工工程の管理に特に注意を要した工事。 ・地元調整や環境対策などの制約が特に多い工事。 <p>(6. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地での夜間工事。 ・DID地区での工事。 <p>(7. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日交通量が概ね1万台以上の道路で片側通行の交通規制をした工事。 ・供用している自動車専用道路等の路上工事で、交通規制が必要な工事。 ・工事期間中の大半にわたって、交通開放を行うため規制標識の設置撤去を日々行った工事。 <p>(8. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の作業があり、その作業の全てに対応した工事。 <p>(9. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業現場が広範囲に分布している工事。 <p>(10. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施工ヤードの広さや高さ制限があり、機械の使用など施工に制約を受けた工事。 ・その他、周辺環境又は社会条件への対応が必要な工事。

4. 工事特性	施工条件等への対応	III 厳しい自然・地盤条件への対応 <input type="checkbox"/> 11 . 特殊な地盤条件への対応が必要な工事 <input type="checkbox"/> 12 . 雨・雪・風・気温・波浪等の自然条件の影響が大きな工事 <input type="checkbox"/> 13 . 急峻な地形及び土石流危険渓流内での工事 <input type="checkbox"/> 14 . 動植物等の自然環境の保全に特に配慮しなければならない工事 <input type="checkbox"/> 15 . その他 理由： _____ _____ _____	(1 1 . について) ・河川内の橋脚工事において、地下水位が高く、ウェルポイント工法などによる排水や大規模な山留めなどが必要な工事。 ・支持地盤の形状が複雑なため、深礎杭基礎毎に地質調査を実施するなど支持地盤を確認しながら再設計した工事。 ・施工不能日が多いことから、施工機械の稼働率や台数などを的確に把握する必要が生じた工事。 (1 2 . について) ・海岸又は河川区域内のため、設計書で計上する以上に波浪等の影響で不稼働日が多く、主に作業船や台船を使用する工事。 ・潜水夫を多用した工事又は波浪や水位変動が大きいため作業構台等を設置した工事。 (1 3 . について) ・急峻な地形のため、作業構台や作業床の設置が制限される工事。もしくは、命綱を使用する必要があった工事(法面工は除く)。 ・斜面上又は急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地滑り防止対策の安全対策を必要とした工事。 ・土石流危険渓流に指定された区域内における工事。 (1 4 . について) ・貴重な動植物に対する配慮のため、工種や施工方法に制約を受けた工事。 (1 5 . について) ・その他、自然条件又は地盤条件への対応が必要であった工事。 ・その他、災害等における臨機の措置のうち特に評価すべき事項が認められる工事。
		IV 長期工事における安全確保への対応 <input type="checkbox"/> 16 . 12ヶ月を超える工事で、事故がなく完成した工事(全面一時中止期間は除く) * 但し、文書注意に至らない事故は除く。 <input type="checkbox"/> 17 . その他 理由： _____ _____	[工事特性のキーワードの詳細を記入] _____ _____ _____
	評価	評点： _____ 点 必ず評点を記入してください。	

※1. 高度な技術力は、加点評価とする。(高度な技術力とは、工事全体を通して他の模範となるものを評定するものである。)

※2. 工事特性は、最大20点の評点とする。

※3. 監督員が評価する「5. 創意工夫」との二重評価は行わない。

※4. 評価にあたっては、監督員等の意見も参考にし、検査員との合議のうえ評価する。

※5. 1項目1点を目安とする。